

平成 22 年度臨時（第 4 回）理事会議事録

日 時： 平成 23 年 1 月 22 日（土） 11：00～16：15

場 所： 東京夢の島マリーナ 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松眞（委任：山崎達光）、前田彰一、青山篤、児玉萬平、斎藤渉（委任：山崎達光）、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、豊伸吾（委任：庄司一夫）、小山利男、外山昌一、柴沼克己、坂谷定生、山下記誉、吉田豊、宮崎史康、奥村文浩、中村公俊、吉留容子、金井寿雄（委任：山田敏雄）
以上 27 名、内委任状 4 名

出席監事：高木伸学、浪川宏 以上 2 名

欠席監事：栗原博 以上 1 名

オブザーバー：昇隆夫国体委員長、黒川重男レース委員長、増田開ルール委員長、山川雅之医事・科学委員長、大坪明外洋安全委員長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 4 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 28 条に基づいて、山崎達光会長が議長となり、平成 22 年度臨時（第 4 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、柴沼克己、奥村文浩の両理事が任命された。

理事会開催前に、故・秋田博正名誉会長に黙禱をささげた。

山崎達光会長から、本理事会に提出された重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) 特別加盟団体加盟入会申請

庄司理事から資料に基づき、日本学生外洋帆走連盟の特別加盟団体申請について説明があった。

前回理事会協議事項で指摘された前期繰越金は訂正されていることを確認した。特

別加盟団体申請条件は満たしているとの発言があった。

柴沼理事から、特別加盟団体認可は賛成であるが、監督・コーチである指導者も含めて JSAF メンバー登録していただくことを強く指導お願いしたいとの発言があった。

児玉常務理事から、学生代表者からは日本学生外洋帆走連盟会員全員を JSAF メンバーにするとの確約は得ているとの回答があった。

承認された。

2) 平成 22 年度定期表彰に係わる受賞候補者推薦

庄司理事から資料に基づき、平成 22 年度定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼について説明があった。

平成 22 年度定期表彰受賞候補者推薦書につき、表彰種別と審議対象者は、功労賞 2 名、栄光賞 2 名、優秀競技者賞 12 名を取り纏めた。毎年 12 月末日の推薦書提出期日を厳守していただきたい。功労賞の田中一美氏については、大島レース継続開催 60 周年を伝統ある大会として 20 年を超えていることで資格基準を満たしていることとした。栄光賞の間寛平氏については、所属する事務所との関係や表彰を受賞されるのか明確でないことから、本理事会で決定していただきたいとの発言があった。

鈴木理事から、栄光賞の資格条件は個人なのか、チームでは対象にならないのかとの質問があった。

児玉常務理事から、表彰の際はチーム名の紹介及び出席もお願いしている。功労賞の田中一美氏についても表彰基準がないので個人を対象としたとの回答があった。

宮崎理事から、栄光賞の間寛平氏はレースでの功績ではないことから再考が必要なのではとの発言があった。

柴沼理事から、太平洋・大西洋を横断したチャレンジ精神に敬意を表するべきであるとの発言があった。

鈴木理事から、同乗者の比企氏は表彰対象ではないのかとの質問があった。

児玉常務理事から、秋山副会長の表彰推薦の提案の際には、2 人を表彰する予定であった。所属する事務所からは対象者を間氏 1 人にしていただきたいとの連絡を受けている。現時点では、受賞に関して正式な決定ができていないとの発言があった。

庄司理事から、冒険航海は表彰基準であることから、推薦があれば積極的に対応していきたいとの発言があった。

河野副会長から、功労賞にはセーリングの普及の基準も示されていることから、功労賞で推薦が可能であるとの提案があった。

吉田理事から、功労賞の入江学氏は外洋近北も推薦団体にしていただきたいとの発言があった。

前田専務理事から、間寛平氏については受賞を前提に功労賞として次回理事会に提案する。表彰の実際は、ポートショーでの表彰も考慮することで、総務委員会、広報委員会、外洋総務委員会で検討するとの発言があった。

承認された。

3) IRO 候補者推薦基準の変更について

黒川レース委員長から資料に基づき、ISAF インターナショナルレースオフィサー (IRO) 候補者推薦基準の変更について説明があった。

ISAF インターナショナルレースオフィサー (IRO) 候補者推薦基準 3(2) 「JSAF のナショナル・レースオフィサー (NRO) 及び A 級ジャッジであること」について、「及び A 級ジャッジ」を削除する。理由は、ISAF 規定における要件ではジャッジ資格は求められていないにも関わらず、JSAF の推薦基準では A 級ジャッジの資格を求めている。さらに、IRO を目指す人は実際のレース活動では実行委員長やレース委員長などの責任ある立場でレース運営に携わっていることが多く、A 級ジャッジの要件のジャッジ経験を満たすことが困難である。以上より、JSAF として推薦基準から A 級ジャッジの資格を削除すべきであると判断した。また、9 月に 1 人 IRO 申請があったが、A 級ジャッジを取得がなかったため申請を見送っているとの発言があった。

承認された。

< 協議事項 >

1) 平成 23 年度事業計画 (案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度事業計画(案)について提案があった。

平成 23 年度連盟実行計画と基本方針は、全般 セーリングスポーツは、ジュニアからシニアまで、またディンギー、ウインドサーフィンから大型艇まで、いっそうチームレスなスポーツになりつつあり、この動きを進めていく。ここ 4 年間基本としてきた普及・文化・勝利の 3 本柱を継承するとともに、それぞれの活動をさらに発展させるべく取り組んでいく。普及 セーリング拠点の増大と指導者の確保、ジュニアセーラーのセーリング継続のための環境づくりが必要である。ジュニアアカデミー委員会、ジュニアユース育成強化委員会、また国体・指導者・普及・レディースのそれぞれの委員会の活動を活性化させていく。組織 数年前より JSAF の財政健全化に取り組み、会員増強を含めた JSAF 組織の基盤づくりを行ってきた。本年度は公益法人改革に伴う新公益法人への移行が大きな課題となっており、総務・財政委員会また公益法人移行検討(申請)プロジェクトで鋭意検討している。JSAF 組織を確固としたものにするよう心がけていく。大型艇 沖縄レースの復活のように、外洋関係者の努力が徐々に結果を出してきている。外洋総務・外洋計測・外洋安全委員会を通して、

多くのオーナーの方々にもっと楽しんでいただくとともに、JSAF 活動に関心を寄せていただけるよう努力していく。将来の挑戦に向けたアメリカズカップ委員会も活動していく。強化 2 年を切ったロンドンオリンピックに対し、できるだけ多くの出場枠を確保するとともに、再びメダルの獲得を目指していきます。強化活動としてオリンピック特別委員会を通して選手、チームのバックアップを行っていく。また 2016 年リオのオリンピック艇種 470 級男女の採用に向けて働きかける。国際化 JSAF 活動国際的に広げていきたいと考える。2016 東京オリンピック招致では ISAF や IOC の視察に対応するなど貴重な経験を積むことができた。オリンピック招致委員会では 2020 オリンピック招致に向け積極的に活動していく。このスケジュールをにらみながら、国際委員会とともに ISAF 総会や世界選手権大会の日本誘致を考えたいと思う。多くの関係者のご協力を得る。基盤確立 セーリング競技の基盤となるルール・レース・ODC 計測の各委員会は、毎年充実した取組みが行われている。一方、セーリング文化を支える広報・事業開発・環境委員会を束ねる事業委員会の活動も活性化してきた。またセーラーをサポートする医事・科学委員会やドーピング裁定委員会の活動も行っていく。JSAF 活動の基礎は、これらの委員会も含めたさまざまな委員会の現場力にあると考えている。また JSAF の足腰の強さという意味では改めて会員増強に取り組まねばならないとの発言があった。

河野副会長から、アメリカズカップ参戦について、JSAF 内に事務局の一部を構成し、連盟から情報を発信できるように可能であれば事業計画に反映させたいとの発言があった。

児玉常務理事から、事業計画内容を一目で分かるように表組形式に作成していただきたいとの発言があった。

2) 平成 23 年度事業予算(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度事業予算(案)について提案があった。

一般会計事業収入は、129,547 千円(対 H22 年度 2 次補正予算案比 30,735 千円減)、事業支出は 126,658 千円(同 28,246 千円減)、当期収支差額は 389 千円(同 1,489 千円減)とした。平成 22 年度 2 次補正予算案との比較において、主な変更点は、総務委員会の協賛金収支(日建レンタコム分)を収支とも 14,000 千円減免した。財政委員会の経理要員雇用費 1,200 千円を新規計上した。事業委員会のモバイル端末代金収支は、平成 23 年 5 月までの契約のため、384 万円(192 万円×2 ヶ月)を計上した。

レース委員会の ARO などの講習会収入およびそれに伴う交通費資料作成費などを計上した。ワンデザイン計測委員会の IHC ステッカー収支及び IM セミナー費用等を新規計上した。

オリンピック特別会計は、214,335 千円(対今年度第 2 次補正予算案比 24,521 千円

増)事業支出は198,754千円(同2,599千円増)当期収支差額は13,081千円(同21,249千円増)とした。平成22年度2次補正予算案との比較において、主な変更点は、JOC委託金、スポ振助成金等の増額が見込まれ、それに伴う負担金収入も増額計上した。なお、申請ベースで計上しているため、認定結果によって変動する可能性が大きい。

免税募金特別会計は、寄付金等の見込額34,210千円を計上した。環境委員会特別会計は、寄付金等の見込額3,756千円を計上したとの発言があった。

3)平成22年度第2次補正予算(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成22年度第2次補正予算(案)について提案があった。一般会計(平成22年度第2次補正予算案参照)(1)平成22年度1次補正予算策定後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、2次補正予算を策定する。(2)事業収入は、160,282千円(対1次補正予算比13,724千円増)事業活動支出は154,904千円(同14,600千円増)当期収支差額は1,878千円(同876千円減)対1次補正予算からの主な変更点は、協賛金収入(日建レンタコム)及び同支出が確定したため、新たに14,000千円増計上した。ホームページ管理費、メンバー管理費などが50万円ほど増加見込みである。

オリンピック特別会計は、平成22年度1次補正予算策定後に確定した事業収支を反映するため、2次補正予算を策定する。事業収入は189,814千円(対1次補正予算比7,936千円増)事業活動支出は196,154千円(同5,815千円増)当期収支差額は8,168千円とした。1次補正予算からの主な変更点は、ロンドンオリンピック関係でスリーボンド社などから寄付があり、免税募金繰入金が増額があった。JOC委託費のチーム派遣事業費増401万円、スポ振重点事業の事業費増135万円など、事業費支出が5,815千円の増加見込となった。

免税募金特別会計は、ロンドンオリンピック関係のスリーボンド社などからの免税募金収入が増加し、事業収入合計34,210千円を計上したとの発言があった。

4)公益法人移行プロジェクト

庄司理事から資料に基づき、公益法人移行プロジェクトについて提案があった。

公益法人移行につき、JSAF公益法人移行検討プロジェクト活動スケジュールの確認をした。2月理事会審議及び3月評議員会におけるJSAF公益法人移行に関する答申書について確認した。移行認定申請書(暫定)の内容について、公益財団法人日本セーリング連盟定款を確認した。また、申請の際は電子申請一本とし、1月19日に電子申請登録をした。評議員定数と選定プロセス及び評議員会について、定時評議員会の設定を6月開催の1回とする。評議員会への出席が過半数を確保し、成立できるように定数を99名から49名に削減する。定数削減とともに外部推薦拡大も考慮して、抜本的に内容を変更し、選定委員会に推薦する。評議員定数はケース1~3

を提案する。ケース 1 は評議員 49 名（人口比配分）、ケース 2 は評議員 49 名（競技人口比配分）、ケース 3 は評議員 21 名（人口比配分）とするとの発言があった。

柴沼理事から、ケース 2 の評議員 49 名（競技人口比配分）で理事会は審議している旨を中部水域県連に伝えているとの発言があった。

庄司理事から、北海道水域の評議員枠 1 名は再考が必要との発言があった。

柴沼理事から、理事会としてケース 2 の評議員 49 名（競技人口比配分）を内規で進め、各水域で作業すること水域理事に一任で認めていただきたいとの発言があった。

庄司理事から、移行認定申請書上は評議員 41～49 名記載で問題ないが、選定した評議員名簿が必要で理事会判断となるとの発言があった。

河野副会長から、艇種別協会から評議員選定がないのは問題ないか検討していただきたいとの発言があった。

柴沼理事から、ISAF ではインターナショナルクラス協会の代表者が ISAF カウンシルメンバーの一員になっているとの発言があった。

前田専務理事から、ケース 2 の評議員 49 名（競技人口比配分）で理事会の方向を示したいとの発言があった。

5) ユース艇種選定に関する討議

西岡副会長から、ユース艇種選定に関する討議について提案があった。

検討チームにおいてユース艇種選定に関する問題認識を再確認した。ユース・ジュニア選手は多艇種で練習することは効果的でないのではないかと。また、採用艇の有効活用なども含めて一貫したプログラムの作成が必要である。高校ヨット部での採用艇種と国体やジュニアユース強化での採用艇種の乖離問題を解決するべきである。ユース艇種選定は、ダブルハンドは 420 級、シングルハンドはレーザーが候補であるが、昨今の経済状況・行政システムを考えると、高体連の存続ならびに県連の財政が問題である。以上から、JSAF が積極的に推進し、ユース艇種を提案していくことが大切であるとの発言があった。

6) 特別加盟団体加盟入会申請

児玉常務理事から資料に基づき、日本 IRC オーナーズ協会の特別加盟団体申請について提案があった。

日本 IRC オーナーズ協会は、国際機関 RORC の IRC レーティングを取得している艇のオーナーの組織である。特別加盟申請にあたっては外洋艇推進グループの総意でもあり、直近 3 期決算報告書についても整理した。特別加盟団体申請条件は満たされているとの発言があった。

前田専務理事から、次回理事会で審議するとの発言があった。

< 報告事項 >

1) 平成 23・24 年度役員選挙結果報告

青淵選挙管理委員長から資料に基づき、平成 23・24 年度役員選出結果について報告があった。

平成 23・24 年度役員選出の会長理事候補選出枠 1 名、全国区選挙理事候補選出枠 8 名、水域理事候補者選出枠 13 名、監事候補選出枠 3 名は、会長候補理事および監事は全国区理事選挙において定員と同数の立候補者であったため無投票当選とした。全国区理事は 9 名の立候補があったため選挙を行い、8 名を選出した。また、水域推薦理事 13 名についても選出があったとの発言があった。

2) ISAF 総会 & JOC 国際フォーラム報告

大谷参与から資料に基づき、2010 年 ISAF 年次総会について報告があった。

平成 22 年 11 月 4～14 日アテネで開催された ISAF 総会の内容は、ロンドンオリンピック準備状況、ISAF ユースワールド報告、ユースオリンピック、ワールドカップ開催、2013 年 RRS 変更、オフショア関係であった。ISAF は IOC との協議も重ねて、参加国数を増やすこと及びメディア・TV 放映権などを考慮した 2016 年オリンピックにふさわしい種目の提案があった。提案された 10 種目の中に二人乗り（スピネーカー）で 470 混合が提案された。これは日本にとって、470 級男子及び 470 級女子の独立種目として必要性を説くべきであるとの発言があった。

河野副会長から、次回理事会で ISAF にサブミッションを提出することで対応することを理事会前に開催したオリンピック特別委員会会議で決定した。JSAF は 470 級男子及び 470 級女子の独立種目としてオリンピックに残すことを要望する。理由は、アジア諸国のセーラーにおいてメダル圏内である艇であること、ユースセーラー育成に必要な艇であることである。また、女子スキフ導入も考慮するとの発言があった。

前田専務理事から、5 月 ISAF ミッドイヤーミーティングでサブミッションを提出するとの発言があった。

3) 上告（審議中）

増田ルール委員長から資料に基づき、最高審判委員会による裁決の通知について報告があった。

平成 22 年 10 月 25 日に受理した「関西学生ヨット選手権大会」における上告の裁決があった。また、もう 1 つの上告については追加申請を依頼しているとの発言があっ

た。

鈴木理事から、上告再審で選手の交通費自己負担は、当該レースのプロテスト委員会から補助いただけないかとの質問があった。

柴沼理事から、帆走指示書等で交通費負担等の記載があれば別だが、基本は上告した選手負担であるとの発言があった。

4) 上告否認について

増田ルール委員長から資料に基づき、2011年 JODA ナショナルチーム最終選考会の上告否認の承認について報告があった。

柴沼理事から、直近の上告否認は認められるが、1年先のレースにおける上告否認を認めるのは選手の権利を剥奪するのではないかとの質問があった。

増田ルール委員長から、基準は裁決まで約束できないが、標準的には2ヶ月までとしている。また、上告による選手の権利は厳守したいとの回答があった。

5) 共同主催・公認・後援願いについて

松原レース委員会委員から資料に基づき、共同主催・公認・後援願いについて報告があった。3大会公認、2後援について認可したとの発言があった。

6) 指導者講師全国研修会の案内

小山指導者委員長から資料に基づき、指導者講師全国研修会について案内があった。

平成23年2月19～20日の2日間、東京都夢の島マリナーにおいて指導者講師全国研修会を開催する。JSAF一貫指導プログラムを再構築するために、オリンピック特別委員会と共同で、現在のゴールドプランを再確認して、日本における選手育成指導者の新たな共通認識を見出すとともに、各世代における具体的な指導のシステムやガイドラインを検討する。関係者各位ならびに理事各位の参加をお願いしたいとの発言があった。

7) JOC 女性スポーツフォーラム

倭レディース委員長から資料に基づき、「2010 JOC 女性スポーツフォーラム」報告書について報告があった。

平成22年10月25日、味の素ナショナルトレーニングセンターで「2010JOC 女性スポーツフォーラム」が開催された。主旨は、本会と各競技団体等が「女性とスポーツ」に関する課題を共有し、解決に向けたネットワークづくりを目的にフォーラムを開催することにある。今回のフォーラムでJOC女性スポーツ専門委員として司会を務めた。JSAFとしても女性リーダーのさらなる増加と前進を目指すことは重要な課題であるとの発言があった。

8) アジア大会&470 ジュニア世界選手権

山田オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、アジア大会&ジュニア世界選手権の報告があった。

平成 22 年 11 月 12～27 日まで開催された第 16 回アジア競技大会で、金メダル 3 個、銀メダル 1 個を獲得した。平成 23 年 1 月 4～9 日まで開催された 2011 年ナショナルチーム選考レースの結果、28 名のナショナルチームが決定した。また、平成 23 年度 JOC 競技団体ランカー一覧において、セーリングは B ランクのトップである。平成 22 年 12 月 17～22 日まで開催された 2010 年 470 級ジュニア世界選手権大会(U22)で、女子チームの後藤・西山組が総合 3 位で銅メダルを獲得した。2011 年第 26 回夏季ユニバーシアード大会に日本代表チーム選考会開催について事前案内があった。

柴沼理事から、アジア大会参加において日本から全種目参加できるように JOC と折衝していただきたいとの依頼があった。

山田オリンピック特別委員長から、アジア大会出場人数枠は JOC に決定権がある。今回、セーリングは 14 名で参加出場種目を決定した。今後も粘り強く JOC と折衝していきたいとの回答があった。

9) 平成 22 年度 11 月末予算管理月報について

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度 11 月末予算管理月報について報告があった。

10) 平成 22 年度 1 月 14 日付けメンバー登録数について

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度 1 月 14 日付けメンバー登録数について報告があった。総合計 9,805 名との発言があった。

11) 平成 22 年度臨時(第 3 回)理事会議事録(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度臨時(第 3 回)理事会議事録(案)について報告があった。

12) その他

前田専務理事から、土居愛美さんが読売新聞スポーツ賞・優秀選手賞となり、1 月 14 日授与式があったとの報告があった。

前田専務理事から、3 月 3～6 日、国際ボートショーがパシフィコ横浜で開催されるとの案内があった。

前田専務理事から、地域活性化センターのスポーツ拠点推進事業について存在が問題とされているとの報告があった。

前田専務理事から、2月26日、東京都ヨット連盟の佐藤精知夫氏の叙勲パーティー開催の案内があった。

前田専務理事から、「ドーピング仲裁ガイド」を配布したとの発言があった。

前田専務理事から資料に基づき、「全国一斉マリナーレジャーアンケート調査」の結果について報告があった。

青山常務理事から資料に基づき、JSAF 海の絵画コンテスト 2010 残したいのはきれいな海 の審査結果について報告があった。

アメリカズカップ挑戦の可能性と方向性について報告があった。

吉田 IRC 委員長から資料に基づき、IRC 申請の推移について報告があった。

前田専務理事から、故・秋田名誉会長の葬儀について案内があった。

前田専務理事から、今後の JSAF 会議日程は、2月19日に理事会及び被選理事会、3月12日に全国代表者会議、3月13日に平成22年度第2回評議員会を開催する。また、各水域連絡会などの日程をお知らせいただきたいとの発言があった。

平成22年度臨時(第4回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成22年 1月 22日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 柴 沼 克 己

議事録署名人 理 事 奥 村 文 浩